

～被災地復興支援～

宮城県南三陸町で田植えボランティアを実施

MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス株式会社（社長：江頭 敏明）は、被災地の復興支援を目的に、6月2日、3日の2日間にわたって、東日本大震災で津波被害を受けた宮城県本吉郡南三陸町の水田で田植えボランティアを行いました。

MS&ADグループでは、昨夏にも同所で水田の瓦礫撤去作業等のボランティア活動を行っており、今回の田植えを経て、2012年秋には震災後初となる稲刈りを予定しています。本活動は、水田の再生のみならず、年間を通じて田植えや稲刈りを行い、被災地の支援に長期的かつ安定的に関わっていくことを目指したものです。

今後も、グループを挙げて被災地の復興支援を継続していきます。

1. 活動内容

- (1) 日 時：2012年6月2日、3日
- (2) 場 所：宮城県本吉郡南三陸町
- (3) 参加者：69名（家族10名を含む）
- (4) 作業内容：「ふゆみずたんぼ（※1）」でのササニシキの田植え
- (5) 作業範囲：約5,500㎡
- (6) 提携先：NPO法人たんぼ

※1：冬の期間に、水田に有機物を多く含む水をはる農法。春まで水を貯めておくことで、稲の切り株やワラなどの有機物が水中で分解され、微生物や藻が発生します。抑草施肥効果により、多様な生き物が集まる豊かな水田へと生まれ変わります。



南三陸町での田植えの様子

2. MS&ADグループの復興支援活動

MS&ADグループでは、2011年7月～9月に、グループ社員104名がボランティアとして参加し、津波の被害にあった水田の瓦礫撤去、水路の復元作業などを行いました。その後、再生した水田は、「ふゆみずたんぼ」の脱塩効果によって、稲作を再開できるまでに回復しました。なお、今回、田植えを行ったササニシキは、「福幸米（※2）」として発売される予定です。

また、グループ傘下の三井住友海上では、ボランティア活動での経験とネットワークを活かして、毎月11日を「福幸米の日」と定め、肥料・農薬5割減の「福幸米（ササニシキ）」のご飯をすべての社員食堂（5カ所）で提供しています。米1袋につき200円が復興のための寄付となり、津波の塩害にあった水田の整備や、農家が作付けする苗の育成等に活かされています。

※2：被災地に再び福と幸が訪れることを願い、「福幸」と「復興」の言葉の意味を込めて命名されました。

以上